

丈夫で崩れにくい路網整備を目指して

森林作業道は気象条件の厳しい山岳地において間伐などの森林整備や木材の集材・搬出のため、継続的な使用に耐えるよう設計施行されています。

しかし、近年の局地的豪雨の頻発などに異常な気候の中、路面の洗堀や路肩の崩壊などが見られるようになったため、より適切な排水処理の徹底が必要となり、これらを学ぶ研修会を三朝町福山地内で行うこととしました。

研修会には造林公社で作業道開設の際に監督員として現場を管理する担当者など11名が参加し、実際に洗堀や路肩崩壊が発生した箇所の復旧作業を行いつつ、「なぜここに水が集まったのか」を考察し、再発防止策を話し合いました。

造林公社では、今後も技術研修を通して、ノウハウを取得し、森林整備に必要不可欠な丈夫で崩れにくい森林路網の開設を進めていきます。

【研修会の概要】

- 日 時 令和3年5月28日（金）
午前10時から正午
- 場 所 三朝町福山字沢谷
- 参加者 11名



研修会の総括（尾崎理事長）



路網の洗堀及び路肩崩壊箇所



路面洗堀の進行を防ぐ横断溝の設置